

2021 年度第一回公示

中小企業・SDGs ビジネス支援事業

～普及・実証・ビジネス化事業（SDGs ビジネス支援型）～

企画書

以下の項目において、該当する項目を選択し、☑をつけてください。

提案型	☐一般型 ☐遠隔実施型	
応募勸奨	☐太平洋島嶼国	☐健康・医療・栄養分野
※詳細は募集要項 「5. 応募勸奨分野・課題」参照 (P23~25)	☐アフリカ（北アフリカ含む）	☐新型コロナウイルス等感染症対策
	☐中南米日系社会連携	☐DX（デジタル・トランスフォーメーション）
	☐インフラシステム輸出	☐民間企業の製品・技術の活用が期待される課題（ 分野課題一覧検索ページ ）
	☐外国人材還流	シート番号；（ ）
	☐海洋プラスチックごみ	
	☐温室効果ガス排出ゼロ	
	☐教育イノベーション	

【企画書作成に当たっての留意事項】

1. 提案製品・技術等については、写真や図を用いてわかりやすくご説明ください。
2. 記載量は、10 ページ以内厳守（表紙、別添資料 1～5 は含まない）とし、できるだけ簡潔かつ的確な企画書を作成するようご留意ください。ページ数を越えた場合は失格となります。
3. 作成にあたっては、文字の大きさは 10.5 ポイント以上(注釈や図表内は 10.5 ポイント以下も可。但し判読に困難のない大きさを要確保)、1 行当たり 45 字以内、1 頁あたり 45 行以下としてください。各ページにはページ番号を振ってください。
4. 企画書作成に当たっての留意事項を青字で解説しています。この部分は、企画書作成時には削除してください。
5. 別添資料以外の資料・書類等を添付いただいても審査対象とはなりません。
6. 外部人材を活用する場合は主要な者の経歴を別添 5 に記載ください。
7. 採択後、JICA より [ご提案の実施計画・方法に関し変更いただく場合があります。](#)

対象国：○○国

案件名：（○○普及・実証・ビジネス化事業」を記載ください。）

提案法人名：（提案法人名・団体名を記載ください。）

※共同企業体を構成する場合は、全ての法人名を記載ください。

2021 年 XX 月 XX 日（提出日）

企画書要約（最大 1 ページ）

案件名：〇〇国〇〇普及・実証・ビジネス化事業（※全体で 45 字まで）

英文案件名：SDGs Business Verification Survey with the Private Sector for XXX

※XXX に提案案件の英文名称案を記載ください。

提案の内容	
1. 対象国／地域／危険度	<p>〇〇国〇〇市 以下の事項を確認したら、☑を入れてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 外務省 国・地域別海外安全情報にてレベル 3,4 に該当しないことを確認した。感染症危険情報は募集要項「2. 本支援事業対象国」(P2) を参照。 【外務省 国・地域別の安全情報】 https://www.anzen.mofa.go.jp/</p> <p><input type="checkbox"/> JICA 安全対策措置を確認した。 【JICA 安全対策措置】 https://www.jica.go.jp/about/safety/rule.html ※安全対策措置にて特別な留意が必要な場合、事業実施計画にて考慮した計画を策定してください。</p>
2. 提案概要	<p>【対象国・地域の受益者・ターゲット】に対し、【ご提案ビジネスの概要】を行うことで、【対象国・地域の抱える課題の解決】を目指すもの。 （上記のような文章の構造で、誰に対してどのような製品・サービスを提供し、どのような課題を解決するか、150 字程度で記載ください。）</p>
3. 普及を目指す機材・システム等 （該当する場合のみ）	<p>（機材・システムを中心とする提案（別添 1 を記載）の場合、普及を図る製品・技術等の名称を記載ください。）</p>
4. 想定するビジネスモデル	<p>（本様式本文 1. (1) の要旨として、提案法人は誰から対価を獲得し、誰に対して必要経費を支払い、どのように利益を生み出すのかわかるよう、お金の流れを簡潔にご説明ください。）</p>
5. 貢献を目指す SDGs のゴール・ターゲット	<p>（以下リンク先等をご参照の上、ご提案ビジネスを通じて貢献を目指す SDGs のゴールとターゲットを記載してください。複数のゴールに該当する場合は、特に関連が強いものを最大 3 つまで選択ください） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000101402.pdf http://www.ungcjin.org/sdgs/index.html</p>
6. SDGs 達成への貢献可能性	<p>（本様式本文 2. (2) の要旨として、ご提案ビジネスが、対象国・地域の課題にどのように貢献できる可能性があるのか簡潔に記載ください。）</p>
7. 実施予定期間	<p>20 年 月～ 20 年 月（ ヶ月）</p>
8. 概算事業経費	<p>円（様式 3（見積金額内訳書）から転記ください。税込 5,000 万円以内）</p>
9. 相手国実施機関 （該当する場合のみ）	<p>（本様式本文 3. (6) ①に記載の機関の名称を記載ください。）</p>

※理解に資する写真や概要図がある場合は、各項目または別添 1 において貼付ください。

1. 当該国でのビジネスの概要 (最大 4 ページ)

(1) 製品・技術・ノウハウ等の概要

① 当該国でのビジネスに用いられる製品・技術・ノウハウ等の概要

製品・技術・ノウハウ・サービス等の概要や特徴（比較優位性、革新性、先導性等）を記載ください。なお、提案製品・技術等が他社製品の場合は、その旨を明記の上、製造法人名、その法人と提案法人の関係、提案法人が当該製品・技術等を取り扱う理由、強みについても記載してください。

機材・システムを中心とする提案については、別添 1 の競合との比較表を記載してください。

② 上記②の国内外の導入、販売実績（販売開始年、販売数量、売上、シェア等）

(2) 想定するビジネスモデル及び普及（販売展開）計画

① ビジネスモデル概要

ご提案ビジネスにおける製品／サービスの流れ及びお金の流れがわかるよう、ボックスや矢印等を使用して作成ください。現地パートナー（企業、公的機関、NGO 等）の関与を想定されている場合は、役割分担がわかるよう説明書きを記載してください。

② バリューチェーン計画

調達・加工/製造・流通・販売、メンテナンス等の計画について記載ください。

③ ビジネスの実施体制

実施体制の全体像、提案法人および現地パートナー（企業、政府、NGO 等）の役割分担、連携検討状況（候補選定済み、覚書締結済み、等）を記載ください。

④ 収支計画（表の形式や単位は必要に応じて変更してください。）

本 JICA 事業終了後、ビジネス開始後の収支計画及びその根拠、初期投資額等を記載ください。

（単位：千円）	20XX 年	20XX 年	20XX 年	20XX 年	20XX
売上高					
単価（千円）					
数量（台）					
売上原価					
売上総利益					
販管費					
営業利益					
営業外収支					
経常利益					

⑤ 収支計画の根拠およびビジネス展開のスケジュール

以下の記載例を参考に、想定単価や販売数量、コストの根拠や、ビジネス展開のスケジュールを記載ください。

- ビジネス開始 1 年目は〇〇社向けに×件（個）の販売を目指す。ビジネス開始時は日本での

製造及び輸出を想定しており、単価△△円で販売予定。現地代理店〇〇社（上記実施体制にて記載した候補先）を通じて広告、販売、アフターケアを行う。

- ビジネス開始から3年で××件（個）／××円の売りに達する計画であり、この時期に現地生産拠点を設立し、現地製造へ切り替え、コスト削減（単価△△円→△円）を図るとともに、□□向けへと更なる普及を図る。
- ビジネス開始〇年目には単年度収支は黒字となる計画。

⑥ 初期投資額及び投資回収見込時期

（例）設備投資等の初期投資〇〇万円は、ビジネス開始〇年目で回収の見込み。

⑦ 資金調達手段の見込み

（例）ビジネス開始当初は日本国内での製造となるため、運転資金等は自社の通常業務内で対応する。現地工場の建設に際しては、複数の銀行からの借入れを想定（計約〇〇万）。

（3） ターゲットとする市場・顧客

ご提案ビジネスについて、下記の項目を記載してください。

- ① 対象マーケットの概況
- ② ご提案ビジネスに対する現地ニーズ
- ③ ご提案ビジネスの対象とする顧客層（種別や規模等）、市場規模、市場の特性・成長性等
- ④ 必要なインフラの整備状況
- ⑤ 競合する企業/製品/サービス等の状況

（4） 想定されるリスクとその対応策

① 許認可等取得の必要性

ご提案ビジネスについて、対象国・地域の許認可取得の要否、また、その他の法的リスクの有無について事前に調査・検討した結果を必ず記載してください。

② 許認可以外のリスク対策

許認可以外のリスク（カントリーリスク、原材料・電気や水道等のユーティリティ・人材の確保、需要発掘等）と解決に向けたアプローチや手段を記載してください。事前に現地調査を行っている場合においては、現地調査の結果を踏まえてどのようにリスク対策を計画しているのか記載してください。

③ 環境・社会・文化・慣習面（ジェンダー、カースト、宗教、マイノリティ等社会的弱者）のリスク対策、配慮

ご提案ビジネスにおいて、環境・社会・文化・慣習面におけるリスクの有無、対策並びに、配慮すべき事項を記載してください。

（5） 海外進出の動機・戦略、対象国・地域の選定理由

① 海外進出の動機・戦略

- 国内の市場動向、提案法人の経営ビジョン・経営戦略等に基づき海外展開を検討するにいたった動機

- ・海外展開の方針、戦略、目標等
- ・上記戦略・目標に対する本提案ビジネスの位置づけ
- ・既存のコアビジネスと本提案ビジネスの関連（活かせる強み等）
- ・本提案ビジネス実現に向けた社内での検討状況、経営層のコミットメント

② 対象国・地域を選んだ理由

現在の海外事業展開の状況、提案製品等の普及を図る観点等から、対象国・地域を選んだ経緯について記載ください。（既存のコアビジネスとご提案事業の関連（活かせる強み等））

③ 教訓の活用（該当企業のみ）

- ・これまで JICA が行う中小企業・SDGs ビジネス支援事業（前身制度含む）を活用した実績がある提案法人においては（他国、他技術含む）、提案事業名を記載いただき、そこで得た教訓を本提案へどのように活かし、当該国でビジネス展開に繋げることができるか記載ください。
- ・同様に JICA 以外の公的機関の海外展開支援を活用した実績がある提案法人においては（他国、他技術含む）、提案事業名を記載いただき、そこで得た教訓を本提案へどのように活かし、当該国でビジネス展開に繋げることができるか記載ください。

2. SDGs 達成への貢献可能性（最大 3 ページ）

（1）対象国・地域における課題

- ・ご提案ビジネスの主たる受益者が抱える課題について記載してください。
- ・対象国・地域における課題の把握にあたっては、外務省の国別開発協力方針・事業展開計画、JICA の各国における取り組みや民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題、及び対象国政府の政策・方針を参考としてください。

【参考】

国別開発協力方針・事業展開計画：

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/kuni_enjyo_kakkoku.html

JICA の各国における取り組み：

<https://www.jica.go.jp/regions/index.html>

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題：

https://www.jica.go.jp/priv_partner/case/reference/subjects/index.html

（2）ご提案ビジネスを通じた SDGs 達成への貢献可能性

① 貢献を目指す SDGs のゴール・ターゲット

ご提案ビジネスを通じて貢献を目指す SDGs のゴールとターゲットを記載下さい。

【記載例】

ゴール 4：

「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」

ターゲット 4.1：

「2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ有効な学習成果をもたらす、自

由かつ公平で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにする。」

【参考】

SDGs ゴール及びターゲット（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン）：

<http://www.ungcn.org/sdgs/index.html>

開発目標ファクトシート（国際連合広報センター）：

http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/15775/

② SDGs への貢献可能性

- ・ご提案ビジネスが、対象国・地域の社会経済的な課題および SDGs にどのように貢献できる可能性があるのか、文章で具体的かつ定量的に記載ください。

【記載例①】

上記（１）のとおり、〇〇国〇〇州では、初等教育の高い中退率が課題となっており、その大きな要因の一つとして教員の質のばらつきや不規則な勤務が〇〇の調査でも報告されている。これに対し、小学生向けの国語、英語、算数の双方向型の e ラーニングを導入して教員の質に左右されにくい教育サービスの提供を可能とすると同時に教員向けのワークショップを展開することで、2030 年までに事業対象地域の初等教育の修了率を、現状の 70%から 95%へ向上させる。

【記載例②】

上記（１）のとおり、所得不足により農業機械が使用されず、また、未熟なポストハーベスト技術等を主な原因として農業の低生産性が課題となっている〇〇国〇〇地域の小規模稲作農家に対して、グループによる農業機械へのアクセスを高めると同時に、収穫後処理の技術を指導することで、収穫時廃棄率の半減や収穫量を現状の平均〇 t から〇 t（60%増加）へ増大させる。

【記載例③】

上記（１）のとおり、島しょ部等のオフグリッドでの再生可能エネルギーの普及を進める〇〇国〇〇地域に、エネルギーの効率的利用を促進する IT システム・太陽光発電装置を導入することで、地域内の家庭や商業施設での電力使用量の半減、再生可能エネルギー使用率の向上を実現し、ターゲット 7.2「再生可能エネルギーの割合の大幅拡大」及びターゲット 7.3「エネルギー効率の改善率倍増」の達成に貢献する。

- ・本事業後の短期的なビジネス展開、中長期的なビジネス展開において考えられる課題への貢献がわかるよう、必要に応じて以下の参考フォーマットを使用して説明ください。

【参考】

SDG Compass (P. 14 「実例：ロジックモデル」をご参照ください)：

http://sdgcompass.org/wp-content/uploads/2016/04/SDG_Compass_Japanese.pdf

JICA 開発課題別の指標・教訓レファレンス

(分野別の目標設定例や、計測可能な指標例が掲載されています)：

<https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/indicators/index.html>

【参考フォーマット】

① 投入するリソース	ビジネス実施にあたり投入するリソース（ヒト・モノ・カネ等）を記載ください。 （※）重要なものを中心に記載ください。
② SDGs 貢献に向けた活動	投入したリソースを用いて何を行うか記載ください。 （※）短期的効果を達成するために必要な活動を設定ください。 （※）活動の結果については可能な限り、具体的に記載ください。 （記載例①のように、「教材開発、e-ラーニング教材の導入」だけでなく、具体的かつ定量的なビジネス範囲や規模が分かるように記載ください。
③ 期待できる短期的効果	ご提案ビジネスによってもたらされる短期的な変化・効果を記載ください。 （※）誰に（個人・組織・集団等）どのような変化が期待されるかを具体的に、定量的に記載ください。
④ 期待できる中長期的効果	ご提案ビジネスによってもたらされる中長期的な変化・効果を記載ください。 （※）誰に（個人・組織・集団等）どのような変化が期待されるかを具体的に、定量的に記載ください。

※「短期的効果」は本 JICA 事業完了から 3 年後を目安に設定ください。

※「中長期的効果」は最長で 2030 年までを目安に設定ください。

※①②→③④は、手段→目的の関係になるように記載ください。

（記載例①）

① 投入するリソース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品開発費 ・ 製品（e-ラーニング教材） ・ 教材開発・活用ノウハウ
② SDGs 貢献に向けた活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-ラーニング教材開発（3教科、1-3年生分） ・ e-ラーニング教材の学校への導入（〇校、対象生徒〇人） ・ 教員に対するワークショップの実施（対象教師〇人）
③ 期待できる短期的効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による教育の質・積極性向上 ・ 子どもの学習意欲向上 ・ 子どもの出席率の向上（現状 70%→90%以上） ・ 子どもの成績向上（3教科平均で 5 点）
④ 期待できる中長期的効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2030 年までに子どもの就学率向上（現状 70%→85%以上） ・ 2030 年までに子どもの中退率の低下（現状 30%→5%以下） ・ 2030 年までに子どもの初等教育修了率の目標達成（現状 60%→80%以上）

（記載例②）

① 投入するリソース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品（医療用ワクチン輸送・保管機材） ・ 開発費 ・ 技術者
② SDGs 達成に向けた活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器開発 ・ XX 国保健省 XX 局及び国立病院を対象とした本邦受入活動の実施 ・ 病院関係者及び関連業界関係者を対象としたデモ機による研修の実施 ・ 対象地域の X 箇所の病院へ機材を XX 台導入
③ 期待できる短期的効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央保管庫から地方へのワクチン運搬回数の削減（〇回／年→△回／年） ・ 対象地域のワクチン廃棄率の低下（廃棄数÷調達数）（X%→Y%）

④ 期待できる中長期的効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2025 年までに 5 歳未満児の予防接種率の向上（現状 A%→B%） ・ 2030 年までに乳幼児死亡率の低下（現状 C%→D%）
---------------	---

③ 波及効果

ご提案ビジネスにより、上記 1.(3)①のバリューチェーンの各局面において SDGs 達成への貢献が期待される等の波及効果があれば、その内容をなるべく定量的にご説明ください。

(3) ODA 事業との連携可能性

連携が想定される ODA 事業（技術協力、研修事業、ボランティア事業、草の根技術協力、有償資金協力、無償資金協力）がある場合は、その内容および期待される相乗効果を記載ください。

なお、他の ODA 事業の実施がご提案ビジネスの前提となるような提案（例えば資金協力によるインフラ建設が事業実施の前提条件になる等）は本制度の対象外です。

3. 本 JICA 事業の実施計画（最大 3 ページ）

(1) ビジネス展開にあたっての本 JICA 事業（本事業）の必要性

- ・ 海外ビジネスを展開するに際して、提案法人が認識している課題を踏まえ、提案法人が実現を目指す海外展開のために、なぜ本 JICA 事業の実施が必要となるのか、その理由と位置づけについて記載ください。
- ・ 本事業後のビジネス実現に至るまでのステップとスケジュールを記載ください。

(2) 本事業の達成目標

- ・ 本事業終了時の達成目標を記載ください。また、同目標の達成がご提案ビジネスの実施判断・準備とどのように関係するかもあわせて記載ください。
- ・ 上記達成目標の判断基準となる項目を記載ください。

(3) 本事業の活動計画

(2) で記載いただいた目標の達成に必要な具体的な活動計画を、別添 2 に記載ください。

※実施項目はご提案ビジネスに合わせ、変更してください。

※実際の実施内容については、採択後の協議において変更頂く場合があります。

(4) 機材使用の有無及び使用する場合の使用計画

機材・システムの販売等を中心とする提案であり、かつ本事業の現地活動で機材を使用する場合は以下の項目について記載してください。（該当しない場合は、「該当なし」と記載ください。）

- ① 機材使用の有無
- ② 使用する機材の名称・数量
- ③ 使用計画（使用場所、使用目的、使用内容及び使用時期等）

- ④ 輸送・設置・使用に係る許認可の有無
- ⑤ 事業終了後の維持管理方法

(5) 事業実施国の公的機関の関与

本事業の募集要項第 5、3.に基づき、相手国実施機関と協議議事録を取り交わすことが想定される場合、以下の項目について記載ください（JICA との業務委託契約において資機材を購入する場合、必須となります）。該当しない場合は「該当なし」と記載ください。

- ① 相手国実施機関名及び選定理由
- ② 相手国実施機関との協議状況（上記（4）の機材の設置に係る合意状況を含む）
- ③ 相手国実施機関のビジネス展開における役割（販売先となる場合は関連の予算規模とその手当見込みを記載）

※可能であれば機関名については部局名も含めて記載してください。

(6) 本事業の実施体制

- ・業務従事者の役割分担の詳細を記載してください。
- ・作業工程案及び要員計画を別添 3、業務従事者名簿を別添 4 に記載ください。
- ・「業務主任者」及び「外部人材（主要な業務の担当者）」について、別添 5 経歴書を作成の上、添付してください。

(7) これまでの準備状況

本提案までに、提案法人（共同企業体の場合は構成法人）が行った調査や現地での活動を記載ください。

(8) 事業実施にあたっての懸念事項と対応方針

本事業を実施する上で提案法人が認識している懸念事項を提示し、そのリスクへの対応方法を記載ください。

(9) 環境社会配慮

本事業を実施する上で提案法人が認識している環境社会配慮に関する以下の項目にチェックをお願いします。

- ①本事業サイト内又は周辺域に、以下に示す地域がありますか？（いずれかにチェック）
- 下記 a～h いずれも該当しない
 - a 国立公園、国指定の保護対象地域(国指定の海岸地域、湿地、少数民族・先住民族のための地域、文化遺産等)
 - b 原生林、熱帯の自然林
 - c 生態学的に重要な生息地(サンゴ礁、マングローブ湿地、干潟等)
 - d 事業実施国の国内法または国際条約等において保護が必要とされる貴重種の生息地
 - e 大規模な塩類集積あるいは土壌浸食の発生する恐れのある地域
 - f 砂漠化傾向の著しい地域

- g 考古学的、歴史的、文化的に固有の価値を有する地域
- h 少数民族あるいは先住民族、伝統的な生活様式を持つ遊牧民の人々の生活区域、もしくは特別な社会的価値のある地域
- 不明

- a～hに該当する場合、選択されたサイト内及び周辺域の状況について、現時点で分かる範囲内で概略を記載して下さい。

②本事業実施において、該当するものをマークしてください。規模について、現時点で不明な場合は「不明」と記入して下さい。(いずれかにチェック)

- 下記 a～e いずれも該当しない
- a 用地取得 (規模：____ha、取得する主体____)
- b 非自発的住民移転 (規模：____世帯、____人)
- c 地下水揚水 (規模：____m³/年)
- d 埋立、土地造成、開墾 (規模：____ha)
- e 森林伐採 (規模：____ha)
- 不明

(10) 過去の応募時からの改善点・変更点

過去に類似の JICA の企業提案型事業の不採択実績があり、今般再度同様の提案を行う場合、過去不採択となった際の提案事業名と、同提案時からの改善点・変更点を記載してください。

以上

別添 1 提案機材・システムの競合技術との比較

(※機材・システムを中心とする提案の場合は必ず作成ください。)

別添 2 活動計画表

別添 3 工程案・要員計画

別添 4 業務従事者名簿

別添 5 経歴書

提案機材・システムの競合技術との比較

- ・機材・システムを中心とする提案の場合は必ず作成ください。（該当しない場合は空欄）
- ・対象国および世界市場における競合について記載下さい。列の数は必要に応じて調整ください。

	提案技術 ○○	対象国における 競合他社技術 A社○○	対象国における 競合他社技術 B社○○	世界市場における 競合他社技術 C社○○
製品・技術画像				
発売開始年				
特徴（強み、弱み）				
技術の分類 (大分類) (小分類)				
機能①				
機能② (複数ある場合は追加)				
価格（単価）※1				
経済性※2				
操作性				
耐久性※2				
安全性・過去の事故等				
環境への配慮				
日本国内シェア※2		N/A	N/A	N/A
対象国内シェア※2				
世界シェア※2				
対象国販売実績（導入例）				
海外販売実績（導入例）				
特記事項				
競合選定理由	-			

提案技術の評価	提案機材・システムについて、第三者機関による評価や認証、受賞履歴、特許等がありましたらご記載ください。
---------	---

※1: カスタマイズ予定のソフトウェア等、価格が未定/変動する場合、概算価格を記載のうえ、計算根拠について説明を付してください。

※2: 客観的なデータを用いて定量的にご記載ください。

※3: シェアは、大分類・小分類等用いてわかりやすくご記載ください。

例：大分類：水処理技術におけるシェア○○%、小分類：ろ過におけるシェア○○%

活動計画表（例）

#	本 JICA 事業における 実施項目	実施内容詳細	達成目標 (本 JICA 事業終了時の状態)	第 1 回 22.06 現地 1 週間	第 2 回 22.08 本邦 2 週間	第 3 回 22.12 現地 3 週間	第 4 回 23.01 現地 2 週間	第 5 回 23.06 現地 2 週間	第 6 回 23.12 現地 2 週間
1	投資・ビジネス環境調査	<ul style="list-style-type: none"> 文献等を参考に事前調査実施 〇〇省へのヒアリングによる投資環境および必要な許認可の確認 必要書類作成と申請 	必要な投資・ビジネス規制が確認される。許認可取得の申請がされる。						
2	市場性／現地ニーズ／競合の確認	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇省へのヒアリングによる市場規模の確認 顧客候補へのアンケートによるニーズの確認 〇〇への訪問による競合調査 	市場性やニーズがあることが定量的なデータで示される。競合企業に対する自社の優位性や差別化要因が特定される。						
3	〇〇技術に対する〇〇の理解	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇に対する普及セミナーの開催 〇〇工場でのデモンストレーションの実施 〇〇への技術導入に向けた協議 	〇〇に当社技術の優位性を理解してもらい、当社技術導入に向けた意向を示した MOU 等の文書が交わされる。						
4	〇〇技術のオペレーション人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇機関の技術者〇人に対する技術指導 〇〇機関の技術者〇人に対するシミュレーション訓練 	相手国の〇〇機関の〇〇が、当社の支援を必要とせずに、トラブル対応を実施できるようになる。						
5	商流・バリューチェーンの構築	<ul style="list-style-type: none"> 現地のビジネス環境の調査 仕入先候補企業との協議、見積入手 販売先候補企業との協議、交渉 現地パートナー企業候補との協議 	原料仕入先、販売先、流通業者等の候補を 3 社までに絞り込む。主要なビジネス条件について現地パートナーとの覚書が締結される。						
6	パイロット事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇機関の〇〇におけるパイロット機材の設置・稼働（〇か月間） 〇〇地域においてパートナー企業テストマーケティングを実施 	製品仕様やビジネスモデルが、パイロット事業の結果を踏まえた精査・修正の後、確定される。						
7	事業が創出する開発効果/ SDGs 貢献への効果検討	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇への訪問による対象地域の開発課題の実態および原因の確認、ベースライン調査 SDGs への貢献ロジックの確認・検証 開発効果の検証 	パイロット事業の結果も踏まえ、想定される開発効果が定量的に示される。						
8	事業計画案の策定	<ul style="list-style-type: none"> 活動結果に基づくビジネスモデルの再検討 収支計画、資金調達計画の策定 要員計画、人材育成計画の策定 ビジネス実施スケジュール策定 	事業計画案が策定され、本 JICA 事業後のビジネス化に向けたステップとスケジュールが決定される。						

(以下の表をダブルクリックすると入力いただけます。必要に応じて追加・削除ください。)

工 程 案 ・ 要 員 計 画

	氏名	担当業務	所属	本事業期間														人・月		
				2022年						2023年								現地	国内	
				6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7			8
現 地 作 業	□原 ×子	業務主任者			■	■			■	■	■			■			■		8.0	
	○山 △男	副業務主任者			■				■					■	■		■		5.0	
																			2.0	
																			6.5	
																			4.5	
																			5.0	
国 内 作 業					■	■				■										3.0
																				3.0
																				2.0
																				2.0
																31.0	10.0			

業務従事者名簿

別添 4

氏名	担当業務	担当業務 内容詳細	所属先	分類 (注1)	格付 (注2)	生年月日 (注3)	最終学歴 (注4)	卒業年月 (注4)

提案法人で本事業実施を総括される方については、担当業務欄に「業務主任者」と記載ください。

(注1) 外部人材については所属分類を、以下の3種類から選択してください。
 A. コンサルティング企業 B. コンサルティング企業以外の法人 C. 個人 (Z. 提案法人)

(注2) 格付は、経理処理(積算)ガイドラインの表2【業務格付・標準業務経験年数・月額単価等基準表】をご確認ください。
 なお、表2の「外部人材向け基準月額」は提案法人に所属する業務従事者や提案法人の補強には適用されず、直接人件費の計上はできません。

(注3) 従来の様式から業務従事者の同定を容易にすることを目的として、「生年月日」が追加されています。ご注意ください。

(注4) 業務従事者の最終学歴(卒業年月)が大学院卒以上の場合、大学学歴と大学卒業年月もあわせて記載願います。

経歴書
業務主任者

氏名	
生年月日	
最終学歴	
取得資格	
職歴	

本事業担当分野と類似する業務経験

国名 (本邦での 業務は「日 本」と記 載)	業務名	担当業務内容	従事時期	従事期間 (約〇日/〇カ 月)
	<p>業務名等は具体名で記載ください。(「案件化調査」、「物流会社A社」等は不可。)</p>			

※本事業実施に際して中心的な役割を担う外部人材
 ※複数名分添付することも可

別添 5

経歴書

外部人材（主要な業務の担当者）

氏名	
生年月日	
最終学歴	
取得資格	
職歴	

本事業担当分野と類似する業務経験

国名	業務名	担当業務内容	従事時期	従事期間 (約○日/○ヵ月)	発注者
<p>業務名、発注者等は具体名で記載ください。（「案件化調査」、「物流会社 A 社」等は不可。）</p>					